



23春闘交渉経過！

「JR東日本の明るい未来づくり」へ！

本部は申第2号「2023年度賃金引き上げの要求について」第1回団体交渉を3月2日、第2回を3月8日に開催しました。

第1回の交渉では組合側から申入れについての趣旨説明を行ないました。また、第2回の交渉では会社側より、現在の社会状況、会社状況の説明がなされ議論を行い、組合側から賃金引き上げを強く要求しました。

組合側

- ・社員の頑張りでも第3四半期も黒字となり賃金引き上げは必然である。
- ・定期昇給4係数実施を強く要請する。
- ・雇用の安定と安心して働ける環境が、社員のモチベーションを上げる。
- ・情勢が不安定な状況ではあるが将来への投資という意味でも賃金引き上げを要求する。
- ・円安、物価高騰で生活必需品への影響が大きく、物価上昇分を含めた要求とした。
- ・離職が大きな問題になっている、離職が多くなると技術継承にも問題が出てくる。安心して働けるためにも雇いを約束頂いて、将来にわたりやる気を持って社業に邁進、努力できるよう賃金引き上げを要求する。

会社側

- ・コロナ禍でも安全安定輸送、社会的使命を遂行していただいていることに感謝する。
- ・賃金引き上げのスタンスは、基準内賃金の引き上げは長期にわたり総額人件費に多大な影響を及ぼすことから、足元の状況を踏まえながら中長期的に慎重に判断することが必要。基本給は中長期的経営見通しを踏まえて環境の変化に対応するための生産性向上に対する社員への貢献への成果配分を基本として毎年度の経営状況を勘案して決定していくものとする。
- ・第3四半期は黒字を確保したが、必ずしも楽観できる状況ではない。想定していた計画には達していない。
- ・有利子負債はコロナ前から1兆円増加し20年前の状態に戻った。
- ・消費者物価指数は4%上昇だが、企業物価指数は10%程度上昇している。
- ・働きがいの創出と、社員・家族の幸福の実現、好循環につなげるべく、スピード感を持って積極的に構造改革を進める。
- ・早期の合意を念頭にスケジュール感を持ちつつ、真摯かつ精力的議論をする。

コロナ禍による厳しい環境の中で、安全・安定輸送に尽力し、黒字を達成したのは社員の日頃からの頑張りです。引き続き要求実現のため、真摯に交渉を行います。

2023春季生活闘争を「ONE TEAM」で取り組もう！